

熊本県立熊本西高等学校 平成29年度学校評価表

1 学校教育目標	
校訓	清・明・和（「清」とは規律・秩序を表す。「明」とは自由・創造を表す。「和」とは調和・奉仕を表す。）の教えを根幹とし、知・徳・体の調和の取れた文武両道の教育をとおして、世界的視野に立った日本人の育成を目指す。

2 本年度の重点目標											
<p>＜めざす生徒像＞ “高い志を持ち夢実現に向かって輝く生徒” ～未来の実現に向かって、情熱を持って、果敢に挑戦しよう～</p> <p>＜具体的取組重点事項＞</p> <table border="0"> <tr> <td>1 学力の向上</td> <td>・・・論理的思考を中心とした学力向上</td> </tr> <tr> <td>2 生徒指導の徹底</td> <td>・・・基本的生活習慣の確立</td> </tr> <tr> <td>3 生徒理解</td> <td>・・・個に応じた個を大切にされた指導の徹底</td> </tr> <tr> <td>4 進路目標実現</td> <td>・・・行きたい進路目標（夢）の実現</td> </tr> <tr> <td>5 体力の向上と逞しい精神力</td> <td>・・・人間力を高める</td> </tr> </table>		1 学力の向上	・・・論理的思考を中心とした学力向上	2 生徒指導の徹底	・・・基本的生活習慣の確立	3 生徒理解	・・・個に応じた個を大切にされた指導の徹底	4 進路目標実現	・・・行きたい進路目標（夢）の実現	5 体力の向上と逞しい精神力	・・・人間力を高める
1 学力の向上	・・・論理的思考を中心とした学力向上										
2 生徒指導の徹底	・・・基本的生活習慣の確立										
3 生徒理解	・・・個に応じた個を大切にされた指導の徹底										
4 進路目標実現	・・・行きたい進路目標（夢）の実現										
5 体力の向上と逞しい精神力	・・・人間力を高める										

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	開かれた学校づくり	広報活動の充実と土曜日授業の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・一日体験入学、西高公開の日、西高説明会の内容充実 ・広報誌の内容充実 ・学校HPの随時更新（更新回数100回以上） ・土曜日授業活用による保護者や地域との交流や行事等の開放 ・学校評議員会の年間2回実施（学校評価や本校取組の検証） 	<ul style="list-style-type: none"> ・従来の取組内容にプラスワンの視点を取り入れ内容を充実させる。 ・担当部署が中心となり、他の部との連携のもと、学校全体として取り組む。 ・可能な限り、生徒（会）主体を目指し、生徒が活躍する場を設定する。 ・各中学校の訪問担当者を決め定期的に訪問し、交流を深める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・一日体験入学は、527人の参加があり、アンケート結果も大変好評であった。中学校での高校説明会も工夫された内容であるとの評価を得た。 ・西高新聞を5月号から12月号まで昨年度よりも1回多く発行することができ、西高生の活躍を伝えることができた。HPの更新回数は12月末までで80回で、3月末までには目標を上回る予定である。
	スクールアイデンティティの確立	生徒・保護者・地域が求める西高づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・特進クラスを中心とした高大連携事業、小・中・高連携事業の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・熊本大学、熊本県立大学、熊本学園大学、崇城大学との高大連携を継続した連携にすることで、特進コースの独自性を高めていく。 ・城山小学校との小高連携を通して、地域に貢献していく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・高大連携では、熊本県立大学の他に県内の3大学との連携を実施し、生徒の主體的な行動に繋がった。また、城山小学校の「ふれあい教室」では本校生が小学生を積極的に指導し好評だった。大学訪問では、1年生が熊本県立大学、2年生が北九州市立大学を訪問し、学ぶ意義や大学への理解を深めることができた。

	中高交流	西地区の拠点校としての取組推進	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観、合同授業情報交換会の実施 ・生徒の交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・三和中学校と授業参観や合同授業を学期に数回実施する。 ・情報交換会を毎月行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・英語教員指導力向上研究公開授業には、近隣5小中学校からの参加があり、拠点校としての役割が果たせた。花陵中学校や高橋小学校との授業交流も実り多いものとなった。
	学校改革	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と向き合う時間の確保 ・生徒の学力向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・校務改革と授業改革の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の精選 ・教科会の内容の充実 ・学習環境、施設の整備 ・職員研修の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年設置した質問コーナーは稼働率も高く有効であった。ITC環境のさらなる充実や授業形態の研究が、生徒の学力向上につながるための施策には課題が残る。また、職員室を含む環境整備を行う必要がある。
学力向上	授業力の向上	「自分の考えを筋道立てて説明できる」能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程研究指定事業を利用した学力向上の実現 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・授業、生徒に関わる強み、弱みを共有する。 ・主体的・対話的で深い学びの視点を深める研修・先進校視察の成果を各教科で具体化する。 ・教科毎の取組を全校で理解する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程研究指定事業に伴う論理的思考力を育成する授業を目指し、職員研修を4回、先進校視察2校、評価問題の検討を全教科で実施。「自分の考えを筋道立てて説明できる」力の育成に全職員が懸命に取り組んでいる。 ・研究授業旬間は、各学期開催し昨年同様200件以上の授業見学があった。 ・授業評価アンケートも今年度、教育課程研究指定事業との関連を考えたものに変更し配付した。全職員での授業力向上への取組が行われている。
		「西高で目指す授業」を念頭に置いた教科指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業・公開授業の充実（相互授業見学200件以上） ・生徒による授業評価の実施と活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・「西高で目指す授業」への全職員による取組 ・研究授業及び合評会の充実、授業見学レポートの活用 ・生徒による授業評価結果を個々の職員で活用し、授業改善及び授業力向上に努める。 		
	自学力の育成	宅習時間の確保	平日2時間（1、2年）、3時間（3年）確保	<ul style="list-style-type: none"> ・宅習時間調査の実施 ・セルフチェックノートを活用して、時間の使い方の工夫を促す。 ・教科課題の工夫と意識喚起 ・下校時間の徹底 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・宅習時間調査を2回行った結果、11月実施分は、1年生76分、2年48分、3年99分であった。さらに時間の使い方を意識させていく必要がある。今後も授業改善と学習の定着と充実につながる取組や働きかけについて研究し、学習習慣の確立を図りたい。
キャリア教育（進路指導）	学力の充実	教科及び進路指導力の向上	各教科や関係する部署との連携と職員の教科指導力の向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・「西高で目指す授業」に向け、各教科で生徒が主体的に考える授業研究に取り組み、生徒のやる気を引き出す。 ・ゼミの充実 ・進路に関する研修会を充実させることにより、情報の共有化を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科会の活性化を図り、教科研修の充実に取り組んだ。アンケート等から少しずつ成果が上がってきている。進路に関する情報を生徒に伝え、主体的に行動できるかが今後の課題である。

	一人一人の進路目標達成	進路実績 ・昨年度を上回る進路実績を上げる。(国公立大合格者35人)	・進路相談、面談の充実 ・個別指導・面接指導・学力検討会の充実	B	・進路LHR等を活用し、効率よく適切な指導ができた。各教科担当や生徒が模擬試験の振り返りを行い、学力向上に繋げた。インターンシップについては、事前指導が不十分だったので、余裕を持った指導が必要である。	
		進路意識の涵養 ・夢や目標を与える取組の実施 ・インターンシップの充実	・日本や熊本で活躍する人による講演会の実施 ・生徒の適性等を考慮したインターンシップの実施、受入先開拓			
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	・時間厳守 ・爽やかなあいさつ ・正しい着こなし	・1日の遅刻者数1.0人(昨年度1.6人) ・生徒対象「あいさつ」アンケート ・時間厳守・服装の項目平均3.2以上(満点4)	・全職員による毎朝の遅刻指導 ・地域と連携した挨拶推進運動、職員からの率先した挨拶励行 ・機を逃さない服装指導 ・生徒会による挨拶・交通指導等への指導・支援	A	・遅刻者は1日平均1.44人(昨年1.58人)朝ゼミ時に慌てて登校する生徒もおり、交通事故にも繋がっている。余裕を持った登校をするよう保護者と協力して指導していきたい。整容面では着こなしの指導を全職員で行っていく。
	能動的言動の育成	各行事における生徒の自主性の育成	生徒が主体となった行事の企画・運営	・学校行事等において可能な限り、職員主体から生徒主体への移行を図る。	B	・体育大会・創立記念祭ともに生徒会を中心に取り組み充実したものとなった。生徒アンケート「生徒の主体性」3.1は、昨年より0.1向上した。「充実した毎日」2.9について、引き続き学校生活の中で満足感・充実感を味わえるよう生徒理解を深め、支援していきたい。
		高い志及び目標を持った高校生活実現の支援(プラスの指導)	全生徒が目標を持った、張りのある毎日を送る。(生徒対象アンケート項目平均3.0以上)	・夢や目標を与える講演会等の実施 ・全職員による様々な場面での声かけ、励まし等の支援		
	美化、環境意識の高揚	掃除への意識高揚、環境ISOの取組推進	生徒対象アンケートの美化・省エネの項目平均3以上(満点4)	・全職員による掃除指導の徹底 ・細めな消灯・節電・節水	B	・「美化・省エネ」2.9について、委員会活動を充実させ、生徒が活動の主体となって取り組めるようにしたい。
人権教育の推進	職員研修の充実	人権教育の基本的認識の確立とその共有	校内研修の充実	・人権や命の問題についての知識や考察を深める講話の実施	A	・討議の場を設け、職員間で相互に学習し合う形を取った。各自の感想をまとめ、共有できる資料とした。次年度以降につながる研修を重ねていく。
	命を大切に作る心の育成	自尊感情及び他者を尊重する態度の育成	・生徒対象アンケートの「命を大切に作る心の育成の充実」の項目平均3.5以上(満点4) ・生徒および職員の心身のストレスの軽減 ・ボランティア活動等の体験活動の充実	・授業等で命の大切さについて学ぶ機会を各職員が2学期までに1回以上設ける。 ・リラクゼーション等の知識や技術の定期的な啓発と促進 ・生徒会による取組への指導・支援	B	・震災の影響は目立たなくなったが、そこで学んだ精神的なケアの手立てを幅広く活用していくことが有効であると分かった。また、生徒会を中心とした啓発活動についてはさらに工夫を重ねていく。

いじめの防止等	人権意識の育成	いじめをしない、許さない心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ解消率 100% ・生徒会による取組の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校いじめ防止基本方針に従い、未然防止及び早期対応に努める。 ・本校独自の「こころのアンケート」の実施と活用 ・生徒会による取組への指導・支援 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめは絶対に行わないとする強い気持ちを醸成するための手立てを今後も日常的に全職員で講じていく。アンケート後の対応は迅速かつ着実に行われており、今後もその意義を理解して協力的に取り組むことが必要と思う。
地域連携（コミュニティ・スクールなど）	地域・保護者・関係機関との連携	学校と地域の連携・協働のあり方	学校行事（体育大会・創立記念祭・チャレンジウォーク等）を通じた交流事業の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民や関係行政機関、保護者との連携 ・近隣小・中学校、地域との積極的交流 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域・保護者・関係機関へ体育大会、避難訓練等の学校行事への参加の機会や、近隣小・中学校と相互の訪問・交流機会を多く設定し、連携を深めることができた。 ・防災型コミュニティ・スクール学校運営協議会を年3回実施し、大規模災害時を想定した避難所運営等の学校防災体制の整備・改善を図ることができた。今後、地域・保護者・関係機関へ体制の周知を図っていきたい。
		学校防災体制の強化	学校運営協議会の開催	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会を年3回実施 ・地域と一体となった防災システム及び災害時連携体制の構築 		
理数科教育	理数科教育の充実	研究活動の充実、進路実績	課題研究や高大連携事業を充実させ、生徒の進路意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や研究の深化と発表スキル向上 ・実習の事前・事後指導の充実、課題研究中間発表の実施 ・面談の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・熊本県課題研究発表会で、本校代表生物班が優秀賞を受賞し、数学班の東京理科大主催の坊ちゃん科学賞で優良入賞するなど、結果が出ている側面もあるが、全体的な研究の深化や発表スキル向上には、まだ課題がある。 ・個別指導の充実により、3年生の進路意識の向上、結果は着実に結果につながっている。 ・PR活動は、活発に取り組んできて、結果にもつながっていると考えられるが、新たな組織的な取組みが必要だと思われる。
		理数科のPR充実	<ul style="list-style-type: none"> ・中高連携の取組充実 ・定員確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・理数科体験プログラムの実施 ・学校説明会やHPの活用 ・中高連携活動の推進 ・対外的な発表会への積極的な参加とPR 		

4 学校関係者評価

【評価項目や評価結果について】

- 校訓は分かりやすく素晴らしい。文武両道、世界的視野に立った生徒の育成も素晴らしい。
- 本校で培う3年間の経験は、社会に出た時の様々な場面で必ず役に立つ。在校生の皆さんにはこれからも文武両道で励んでいただきたい。
- ここ数年、常に先を見て取り組んでいる姿に情熱を感じる。全てに他より一歩まさる精神と取り組みは大きな成果と成長をもたらす。
- 全体的に保護者、職員の評価は高いようだ。いじめ対策に対しての生徒の評価が高いことは良い。
- アンケートは結果判断ではなく、目標到達のためのプロセスが明らかになるようにすると良い。常に目標に向かう姿勢を大切にしてほしい。

- 4段階評価のアンケートは分かりやすく良いし、高い数値を得ていると思う。
- 生徒、保護者、職員という三者からのアンケートは適切であると思う。
- 様々な角度から成果が見受けられる。一日体験入学500人以上、西高新聞の充実、HPの更新、高大連携、小高・中高連携、など効果がある。

【各項目について】

- ①学校経営
 - 地域の学校としての位置づけが定着してきた。
 - 中高連携、高大連携に積極的に取り組んでいる。特に近隣中学校との交流は後の志望にもつながるため、西・南区の中学校を中心にさらに積極的に拡大してほしい。
- ②学力向上
 - 「西高で目指す授業」また「自分の考えを筋道立てて説明できる力の育成」に期待が持てる。
 - 生徒の成長は無限大にある。「西高で目指す授業」に興味がある。これは、西高の将来に向けての取組になる。
 - 幅広い学力の生徒が入学する昨今の西高において、校長はじめ教職員の皆さんの教える努力と工夫には心から敬意を表する。
- ③キャリア教育
 - 国公立をはじめとした大学合格者増を目指して取り組んでほしい。
- ④生徒指導
 - 挨拶、身だしなみは、社会に出るために必要であるから今後も継続してほしい。
 - 遅刻者1人未満という高いレベルの指導徹底がよい。生徒が主体であり、美化意識は高いと感じるが評価点が低いようだ。
 - 生徒の（近隣の清掃）奉仕活動などからも活動的な印象がある。
 - 今の時代に沿った生徒指導を実践しており適切だと思う。
- ⑤人権教育の推進
 - 命を大切にすする心の育成の項目は3.5以上と高い評価が出ている。
 - 生徒の成長は教職員の情熱にある。
- ⑥いじめの防止
 - 正面から対応してほしい。
 - 学校独自にも心のアンケートをしているのが良い。また、生徒は素直に書いているようだ。
- ⑦地域連携（コミュニティ・スクール）
 - この地域は連帯意識が強い。諸団体とのつながりも含め、益々絆が深まっていくと思う。
 - 今後もキャッチボール方式で地域との連携を密にしてください。
- ⑧理数科教育
 - 高大連携など魅力的な取組がある。生徒募集につなげてほしい。
 - 入学志望者増のための取組を一緒に考えていきたい。

【その他】

- 環境も良く、取組にも努力している。全体的に少しずつ向上していくと思う。
- きめ細かな指導と愛情が伝わる関わりが、進学、就職、部活動や学校生活等に反映され、生徒さんの健やかな成長につながっていると思う。
- 部活動では、体育部も文化部も良い成績を残していると思われる。また、部活動以外でも活躍が見られ、継続してほしい。生徒、職員のおかげで知名度も上がっていると思う。生徒が西高に来て良かったと思える学校をめざしてほしい。
- 生徒の真面目さは変わらない本校における唯一のテーマは、進学校としてのイメージを取り戻すことだと思う。現場の教職員は入学してきた生徒を一生懸命育てているが、現場だけの努力でイメージを取り戻すことは容易ではないと思う。現在の中学生、保護者にアピールするために、もっと大きな視点で何をすべきかを考えてほしい。

5 総合評価

防災型コミュニティ・スクールの立ち上げでは、熊本地震後に築いた地域との強固なつながりを継続することで、西部地区の拠点校としての取組をさらに推し進めることができた。花陵中学校、城山小学校、高橋小学校と交流事業を実施し、高い評価を得た。評価項目については、目指す生徒像「高い志を持ち、夢実現に向かって輝く生徒」の達成に向けて全職員で取り組んだ。全体評価としては、16項目のうちA評価が7項目（3増）、B評価が9項目であり、概ね目標達成ができた。

個別の項目では、「開かれた学校づくり」、「中高校流」、「学力充実」、「いじめ防止」、「理数科教育」など7項目で昨年度よりも評価が向上した。今年度は、企画戦略委員会を、研究推進委員会、生徒指導委員会、生徒募集委員会の三委員会に改組し、喫緊の課題について協議検討、企画立案し、学校改革をさらに推進した。また、生徒の頑張りを紹介する西高新聞が定着し、5月から毎月発行、中学校や地域の皆様に配付するなど、ホームページの更新と併せて広報活動に努めた。

「自学力の育成」、「学力の充実」は引き続き課題である。文部科学省の研究指定を好機として授業改革やOJTを推進し、論理的思考「自分の考えを筋道立てて説明できる」能力の育成、分かる授業の実践に結びつける教科指導等への取組をさらに充実させていく。

6 次年度への課題・改善方策

○2年目を迎える文部科学省教育課程研究指定事業を最大限に生かし、「自分の考えを筋道立てて説明できる」能力の育成に務め、論理的思考力を高める授業・評価を構築する。

○「高い志を持ち夢実現に向かって輝く生徒」の育成を目指し、本年度の成果と課題をしっかりと検証したうえで、プラスワンの精神を盛り込みながら、目標達成に向けて全職員で取り組む。

○「自学力の育成」及び「学力の充実」は本校の大きな課題である。毎日の授業が一番大切であるという基本を再確認して、「西高で目指す授業」の再構築を図り、生徒の主体的、対話的で深い学びの授業実践に向けて学校全体として取り組む。

○「地域連携（コミュニティ・スクール）」の枠組みはできつつある。次年度は、防災に関する実質的な連携を深め、緊急時に実働できる体制をつくる。また、「開かれた学校づくり」及び「中高交流事業」については高い評価である。情報発信の充実や小・中学校及び保護者・地域、更には西区役所との連携強化を図り、西部地区の拠点校としての取組を更に推進する。

○「人権教育の推進」及び「いじめの防止等」については、各職員の「命の授業」を継続し、職員研修や本校独自の「こころのアンケート」を更に充実させながら、いじめの事前防止や認知、早期解消及びいじめ解消率100%をめざして取り組む。また、地震に対する心のケアも継続して取り組む。

○理数科教育については、引き続き各種の表彰を受け、科学イベントへの協力を実施するなど成果を上げている。次年度も、取組内容や生徒の活躍等を西高新聞やホームページで積極的に発信し、理数科教育への理解を促進する。